

T O P I C S

サイエンスキャンプ2005年

サイエンスキャンプは、先進的な研究施設や研究現場で、第一線の研究者等から直接講義や指導を受けることにより、次の時代を担う若者の科学技術に対する興味・関心を高め、知的好奇心や探求心を育てることをねらいとして、(財)日本科学技術振興財団の主催により毎年実施されています。

受け入れ機関は独立行政法人が中心の25機関でした。農研機構からは中央農業総合研究センター/作物研究所、果樹研究所、畜産草地研究所、動物衛生研究所が参加し、8月9日(火)~11日(木)の3日間、同時に開催されました。

参加者は、当所を希望した全国からの応募者44人の中から選ばれた、8名の高校生の皆さんでした。応募の動機は動物が好きで、動物のお医者さんになりたい、動物を助ける仕事に就きたいというものでした。応募がたくさんあったことから選考に苦労しました。

カリキュラムと講師は次のとおりです。

8月9日(火)

開講式/オリエンテーション

サルモネラの検査

(疫学研究部 微生物・血清管理室/木嶋真人)

8月10日(水)

講習・実習(2コース)

a) 血清診断及びマウスの取扱

(免疫研究部 免疫病理研究室/清水真也)

b) 原虫を培養して観察しよう

(感染症研究部 原虫病研究室/中村義男 金平克史)

(感染症研究部 寄生虫病研究室/春日春江)

サルモネラの検査結果

(疫学研究部 微生物・血清管理室/木嶋真人)

診察の基礎と血液検査

(生産病研究部 病態生理研究室/堀野理恵子 藤野資子)

(生産病研究部 代謝障害研究室/宮本 亨

新井鐘蔵 菊 佳男)

(企画調整部 衛生検査科/大橋 傳)



8月11日(木)

家畜の病気を診断する

(疫学研究部 病性鑑定室 久保正法)

まとめ/閉講式

参加者には様々な診断や検査方法を当所研究職員と一緒に実際に体験して頂きました。

参加者は、各講義や実習をとおして、動物衛生研究所での研究の重要性や、範囲の広さ、緻密さと正確さが要求される実験、愛情とともに細心の注意が必要な動物とのふれあいなど、多くのことを新鮮な驚きの中で体感しました。

参加者の感想を聞くと、「良い体験ができた。講師の先生が親切に細かく教えてくれた。」「将来の目標になった。」等の感想が述べられました。閉講式が終わったあとも帰る予定のバスを遅らせて講師の研究室に行き、話を聞いたり挨拶したりして研究所内を回ってから名残惜しげに当研究所を後にしました。

(広報委員会事務局)